

## 第14回山形県地域年金事業運営調整会議 議事概要

日時：令和元年7月29日（水）13:30～16:00  
場所：「山形グランドホテル」2F サンリヴァ

## 山形年金事務所 中村所長より主催者あいさつ

### 東北地域第一部 石井部長よりあいさつ

北川委員長が議長となり議事進行

**議事 1** 平成 30 年度山形県地域年金展開事業取組状況報告【資料 1】  
山形年金事務所堀之内副所長より報告説明（約 10 分）

#### **【質疑】**

（北川議長）

項目ごとに数件の意見をいただいたのち、事務局より回答してもらうこととします。地域年金展開事業をいかに発展させていくかの視点でのご意見を願います。1 つ目の地域年金事業について、社会保険協会の三浦委員お願いします。

（三浦委員）

いわゆる 2000 万円問題など、年金に対する不安や不信がいろいろな場面で取りざたされています。知識不足から来ているものが大きいのではないのでしょうか。制度の周知が重要と考えます。年金全体から見れば未納は 5%だが、そう考えない人が多い。若年者に対する啓発活動が大事ではないのでしょうか。

（中村所長）

ー三浦委員に対する回答ー

2000 万円問題は年金事務所に対しても反応があります。反応してくる方は関心のある方でもあるので年金事務所としては丁寧に対応していきます。また、各層への周知活動については機会をとらえ展開していきたいと考えています。

（北川議長）

次は年金セミナー事業についてご意見のある方お願いします。

（佐藤弘委員）

国民年金基金は国民年金保険料を納めている方が加入するものなので、基金加入者を増やすためにも、国民年金保険料の未納者をなくしていく取り組みをお願いします。東北公益文科大学で高校生向けに、なぜ年金を納めるかという教育用の動画を作成し **YouTube** で発信しており、大変面白い取り組みと感じました。コラボなどできれば若年層への周知に役立つのではと思います。

（高橋委員）

昨年まで社会科の教員をしていたが、授業の中でおじいちゃんやおばあちゃんが、どのくらい年金をもらっていると思うか、と生徒に問いかけると結構知っている生徒もいます。生徒たちに教えるだけではなく、家庭での話題になるように大人がもっとかかわっていかなければならないと思います。

(平塚委員)

私と年金のエッセイについて、山形県の応募がありませんでした。エッセイとは身近なことから書くものなのでなかなか難しいと思います。エッセイではなく小論文にしてはどうでしょうか。大学入試の仕組みも変わってきており、小論文のコンクールのようなものにすれば、生徒への評価につながると考えます。

(中村所長)

ー佐藤弘委員に対する回答ー

山形新聞の記事を確認し、大変良い取り組みと思いました。山形年金事務所にも東北公益文科大学の卒業者がいるので情報を収集していきたいと思います。

(中村所長)

ー高橋委員に対する回答ー

わかりやすい年金セミナーを作っていきたいと考えています。年金が将来生活の設計に不可欠であることを伝えていきます。授業でも取り上げてもらえるよう今後も進めていきます。

(中村所長)

ー平塚委員に対する回答ー

エッセイは家族が年金を受給している方、あるいは大変な生活の中で苦勞して保険料を納めている方など身近なところにかかわりのある人からの応募となっています。ご意見は大変良いと考えるので、これから取り入れていけるかどうかも含めて検討していきます。

(志藤委員)

出張相談について、年金事務所に行くことなく相談ができて大変良い。回数と相談者数について地域的な偏りがあると思うが、年金事務所としてはどのように考えていますか。また、今後はどのような方向で考えていますか。

(北川議長)

イオンで協力いただいた日本放送協会の合津委員より発言を願います。

(合津委員)

ラジオで紹介されたとの話について、メディアは確かに宣伝効果があるが、それでも限られた人数にしか伝えられません。社内では新しい発想を新しい人たちに考えてもらっています。本会議も低年齢化を図り、新しい発想を取り入れていけばどうでしょうか。大学生に入ってもらうなど新しい取り組みにチャレンジしていくことができれば、マスコミも食いついてくると 생각합니다。

(松田委員)

会議の回数や説明会の回数ではなく、その内容がどうであったのかを精査していけば次につながると考えます。

(中村所長)

－志藤委員に対する回答－

何十年も前から出張相談を行ってきました。事務所によって設定も違う。酒田については社会保険労務士会に委託をして運営しています。また、必要資格期間が10年に短縮され、対象者が増えています。お客様の利便性も考慮し今後も進めていきます。

(中村所長)

－合津委員に対する回答－

斬新なアイデアありがとうございます。年金セミナーについては、なるべく若手の職員が講師をし、近い年齢の説明で、より身近に感じていただければと思っています。

(中村所長)

－松田委員に対する回答－

年金セミナーについてはアンケートを実施して活用し、次につなげています。年金相談事業についてのお客様の声は、まだ反映しきれていないところもあるので、今後ご教授をお願いします。

(村岡委員)

医療機関で行っているお客様のご意見に対し、回答を病院内に貼り出すなど公表してはどうでしょうか。また、セミナーは回数を増やすだけでなくもっと聞く人がわかりやすいものを目指すべきです。

(岩城委員)

P15年金委員の委嘱数が減っているが、必要があれば社会保険労務士会に相談してほしいです。

(佐藤昌司委員)

連携し、委員のスキルアップを図っていただきたいと思います。資料1、P14の支援の意味とP3の連携の意味を教えてください。自治体やイオンモールにて年金相談をしているがイオンモールのほうは相談者数が少ないようだが、効率化を目指しているのではないですか。

(中村所長)

－村岡委員に対する回答－

年金事務所では、来訪者へのアンケートやお客様の声を入れる箱を設置しており、公表はできないが内部資料として活用しています。また、より広い層への拡大も視野に入れ進めていきます。

(中村所長)

ー岩城委員に対する回答ー

以前国民年金委員だった方がご高齢で退任されたためだいいぶ数が減りました。

(中村所長)

ー佐藤昌司委員に対する回答ー

今後も連携をしていきます。年金相談は原則、予約制を進めています。イオンモールについては、予約ではなく制度周知を含めた相談事業という位置づけとしています。効率化も必要だが、幅広くという視点もあるのでその点で実施しています。

(堀之内副所長)

ー佐藤昌司委員に対する回答ー

連携については市町村向け情報誌「かけはし」や年金エッセイ・ポスターコンクールの広報についてとなります。

支援については各地区社会保険委員会の役員会や委員会の理事会の意見交換などとなります。

イオンモールは予約制ではありませんが、チラシ配布をして予約を周知しています。

(北川議長)

ここで議事 1 についてのご意見を締めます。ほかにご意見のある方は議事 2 にて発言願います。

**寒河江年金事務所取組みの特別報告** (約 7 分)

**議事 2** 令和元年度山形県地域年金展開事業 事業計画 (案)【資料 2】  
新庄年金事務所川又所長より報告説明 (約 10 分)

**【質疑】**

(北川議長)

ただいまの「令和元年度事業計画 (案)」と寒河江年金事務所取組みの特別報告について一括してご意見やご助言をお願いします。

(佐藤昌司委員)

相談予約制を強く進めており、完璧な相談を目指しているものと思いますが、一方でイベント会場などで予約なしの相談も行っていますが、どのようにお考えでしょうか。また、セミナーについて終了後に家庭に持ち帰れるリーフレットのようなものがあるとよいのではないのでしょうか。すべての学校に回することは不可能なので、PV を作成して各学校に配布し、時間のある時に見てもらうことができたら良いと考えます。

(大築委員)

ただ今の PV の話は大変良いと 생각합니다。非常に時間はかかるかもしれないが、年金は大事なものという気分を醸成していければと思います。そのためには高校、大学といわず幼少のころからそういった教育が必要です。地域や家庭で興味を持ってもらえるように、公民館等の社会施設に年金が話題となるようなパンフレットを置くとかいろいろあると思います。

(中村所長)

－佐藤昌司委員に対する回答－

相談会等のイベントについては周知広報の位置づけと考えています。効果的なイベントについては、今後も検討が必要と認識しています。

PV については組織全体の問題をはらんでいるので、現状すぐに取り入れるとはならないが、当面は地域に根差した取り組みを進めていきたいと考えています。

(中村所長)

－大築委員に対する回答－

家庭内の話題についてはエッセイ等で、地域に根差した対応についてはポスターコンクールの表彰を中学校に直接行ってご家族ともお話をするなどしているのが現状です。資料については組織として作成していかなければならないので、組織としてどう対応できるか話していかなければならないと考えています。地域型年金委員が少なく、苦戦している面もありますので、今後ご助言等願います。

(佐藤弘委員)

資料 2、P7 について、要綱に調整会議の回数は乗っていない。山形県は年 2 回だが全国的に回数はどうですか。時期をずらして 1 回でもよいのではないのでしょうか。

(中村所長)

－佐藤弘委員に対する回答－

中間報告時の実績報告が少ないのと、11 月は年金月間に注力しているので開催日程がなかなか決められず苦慮しています。年 1 回の県もあるので、ほかの委員の意見も伺えればと思います。

(佐藤昌司委員)

似たような議論が続いていると認識している。意見があったことに取りかかる前に次の会議が開催されているように感じるので年 1 回でよいと 考えます。

(中村所長)

－佐藤昌司委員に対する回答－

中間報告と重複することがだいぶあることは承知しています。ただ今のご意見を踏まえて、検討していきます。今年度については事業計画のとおり年 2 回開催とさせていただきます。

(北川議長)

他にご意見がなければ、以上で議事 2 の令和元年度山形県地域年金展開事業事業計画（案）の質疑を終了いたします。  
本日のまとめとして中村所長お願いします。

－中村所長総括－

本日は長時間にわたり、委員の皆様から貴重なご意見やご助言、ご提案をいただきまして、大変ありがとうございました。

特に、今迄に無い発想のご意見等もありました。

○小論文の取組みについて

○若年層を対象とした会議の開催

⇒国民へ訴える取組みを行い、若年層へ浸透させていきたい。

○会議資料のペーパーレス化

○運営調整会議の年 1 回の開催

等、多くのご意見・宿題をいただいたところです。

各場面で年金制度への不安、不満を払拭出来るよう、また、制度を理解できるよう、お客様の声を聴ける場面を作り、幅広く対応をしていかななくてはなりません。

いただきましたご意見等につきましては、早期に整理をいたしまして、今後に向けて、県内各年金事務所における地域年金展開事業の取組みに、活かしてまいりたいと思っております。

令和元年度も 3 か月が経過しておりますが、年金セミナーにつきましては、既にアプローチを実施しておりますし、関係機関が主催する研修会等への講師派遣も積極的に行なっております。今後は、ご承認をいただきました事業計画に基づいた取組みを、本格的に実施し、昨年度を上回る実績を上げられるよう、取り組んでまいります。

また、その取組状況につきましては、来年 1 月の運営調整会議にてご報告させていただきたいと考えております。

これからも、県内年金事務所が一丸となって取組みを進めてまいりたいと思っておりますので、引き続き、委員の皆様のご理解、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

(北川議長)

以上で議事を終了します。

いろいろ熱のこもったご意見をいただきました。非常に良い会議だったと思います。若年層に対する課題等、我々が一生懸命考えていかなければならないことが多々あります。今後も一緒に考えていければと思います。本日はありがとうございました。

ー梅津副所長ー

事務局から2点の事務連絡。

- ① 第15回運営調整会議は、1月中旬開催予定です。
- ② グランドホテル駐車場をご利用の方は、フロントに駐車券をご提示願います。

<終了>